

第五十八章 司法省職制及檢事職制章程

第九十五條

明治八年七月廿三日新
瀧縣ヨリ内務省へ伺

本年五月司法省事務章程御改正ニ付テハ管下人民一人
又ハ數人相會シ規則ヲ履ミ代書代言營業致度願出ルト
キハ縣廳限リ許可シ可然ヤ又ハ其時々可伺出ヤノ旨司
法省へ相伺候處指令難相成旨ニテ伺書差戻相成候ニ付
於御省御指令被下度相伺候也

(指令)

書面代言代書ノ儀人民相對ヲ以テ營業候儀ハ會社ト
ナク聞置不苦候事

第九十六條

セ

明治九年二月十四日山
梨縣ヨリ司法省へ伺

昨明治八年十二月御省達第四拾四號及本年一月第十一
號ヲ以テ地方警察官ハ直チニ檢事ノ務ヲ行フ者ト相心
得事務可取扱旨御達ノ所當山梨裁判所へハ檢事在勤無
之ニ付警察官ニ於テ直チニ事務可取扱ノ所差向右順序
手續等實際差支ノ廉々左ニ相伺候

第一條

檢事職制中大檢事ヨリ權少檢事迄ノ職務ハ令參事ニ於
テ之レヲ行ヒ檢事補ノ職務ハ警部ニ於テ取扱フモノト
心得可然哉

第二條

同章程中檢事ハ彈告シテ判ヲ求ム判事ノ裁判ニ服セサ

司法省職制及檢事職制章程

レハ上告スルヲ得ト之レアリ然ル上ハ裁判不服ノ儀
 於有之ハ則昨明治八年第九拾三號公布控訴上告手續第
 四章刑事上告第三十一條中ニ裁判言渡シヨリ二十四時
 間ノ内ニ上告ヲ爲ス事ヲ囚人ニ達シ又第十日迄ニ上告
 趣意明細書ヲ作り遞送スヘシトアルニ準據シ若裁判不
 當ナリト思惟スル時ハ上告セサルヘカラス然ルニ全體
 上告ヲ爲スニハ其罪案口供ニ依ルニ非ラサレハ告書ヲ
 作ルノ道無之所現今當山梨裁判所ノ取扱ニ依レハ懲役
 一年以上ノ犯罪ハ罪案ノニ廻附有之其百日以下實決ニ
 該ル者ハ罪名日數ノニ通知ニテ其口供ノ如何ヲ知ル
 ナリ得ス然ル時ハ縱令裁判不當ナルモ其顛末ヲ知ルニ
 由ナク亦其當否ヲ議スルノ便ナシ殊ニ裁判所ト縣廳ト

往復ノ際ニ於テハ多少ノ手續ヲ經ルニ付右通知ノ如キ
 モ概テ裁判言渡ノ翌日ニ至ルニアラサレハ閱スルヲ得
 ス如此手續ニテハ上告ノ期ヲ過キ其上告ノ權ヲ失フニ
 至リ實際不都合ニ有之依テ向後懲役一年以上百日以下
 ニ不拘其罪案口供共ニ裁判官ヨリ一應廻附有之候様致
 シ度亦右上告ヲ爲スニ囚人ニ達スル時間ハ其罪案口
 供廻附ノ時ヨリ二十四時間ト相心得可然哉
 但本條ノ通ニテ可然儀ニ候ハ、其段裁判所へ御達可
 相成哉

第三條

前條ノ通ニ付收賄々罪ニ該ルモノモ向後直ニ裁判所ヨ
 リ罪案書廻附相成候様致シ度候

第四條

前條檢事々務取扱候ニ付テハ或ハ一二員裁判所へ相詰メ候ハ、便宜可相成所全體不足ノ人員コテ本務ムラ差支候次第ニ付時トシテ裁判所へ出張或ハ鞠問傍聴致不苦候哉

第五條

勤向ノ儀ハ檢事職制章程ニ基キ事務可取扱ハ勿論ニ候ヘトモ警察官ニ於テ兼行フニ付取扱手續等何等御成規可有之哉自然其御成規於有之ハ御達有之度候
右相伺候也

(指令)

第一條

伺ノ通

第二條

檢事ハ刑事ノ原告人ナレハ固ヨリ推問及ヒ口供讀聞處刑宣告等ノ節ハ獄庭ニ臨ミ其職務ヲ行フニ付口供ヲ審閱セスト雖モ上告スルニ過期失權等ハ之レ無ク然レモ實際行ヒ難クシテ口供ノ審閱ヲ要スルトキハ裁判官ニ協議審閱スヘシ尤囚人ニ達スル時間ハ裁判官渡ヨリ二十四時間ト可心得事

第三條

前條指令ノ通

第四條

伺ノ通

第五條

別段成規之レナキ事

第九十七條

明治九年一月四日足柄
裁判所ヨリ司法省へ伺

檢事章程中罪人ヲ裁判官ニ彈告スルノ後裁判官ノ審問
及ヒ斷決ノ際ニ當リ連班傍聽スルノ明文無之然ルニ客
歲巡回裁判派出ノ節ハ檢事モ同様派出審問ノ都度々々
連班傍聽致居候右ハ死罪ノ審問ニ限リ候哉將々檢事ア
ルノ法衙ハ罪ノ輕重ニ論ナク傍聽致ス儀ニ候哉當廳ノ
儀ハ未々無檢事ニ付客歲十二月本省第四十四號御達以
後ハ地方警察官ヲ直ニ檢事ト可相心得儀ニ付本條ノ手
續豫メ心得置度相伺候也

(指令)

伺ノ趣檢事ハ刑事ノ原告人ニ付獄庭ニ出テ其職務ヲ
履行ヲ可キ者ト心得ヘシ

第九十八條

明治九年一月十二日東京上
等裁判所ヨリ檢事局へ伺

開拓長官黒田清隆代言同使七等出仕岡本長之昨八年十
二月十二日ノ裁判執行手續民事上告成規ニ悖戻セルヲ
以テ別紙之略ノ通告發有之候如何處分可仕哉相伺候也
(指令)

伺ノ趣其裁判所ニ於テ相當ノ處分可致候事

第九十九條

明治九年二月十日濱
田縣ヨリ司法省へ伺

司法省職制及檢事職制章程

地方警察吏ノ儀檢事兼勤ヲ被命候ニ付東京裁判所檢事ノ事務爲見慣該縣四等警部并關確上東京爲致候間出著ノ上ハ萬端可然御指揮相成度此段申出候也

(指令)

申出ノ趣承届候事

第二百條

明治九年二月二十三日函館裁判所ヨリ司法省ヘ伺

昨八年第四拾四號ヲ以テ地方警察官ハ直チニ檢事ノ務ヲ行フ者ト相心得事務可取扱旨裁判所置サル各縣ヘ御達有之尙本年第拾一號ヲ以テ裁判所所有之各府縣トモ追テ檢事派出候迄ハ一般同斷ニ可相心得旨御達ニ付テハ裁判所中ニ一局ヲ設ケ警察官之ニ出席シ檢事ノ職務可

取儀ニ候哉

前條ノ如ク檢事在ラサル各府縣ヘ御達有之上ハ當開拓使函館支廳警察官ト雖モ前疑同様事務取扱候儀ニテ同使ヘハ別段御達相成候哉相伺候也

(指令)

第一條

伺ノ趣警察官ノ便宜ニ任シ候儀ト心得ヘシ

第二條

伺ノ通

第二百一條

明治九年三月二日長崎裁判所檢事局ヨリ司法省ヘ伺

檢事章程第三條裁判ヲ得ルノ後云々其赦典ヲ乞フヘキ

司法省職制及檢事職制章程

者ハ意見ヲ附シ司法卿ニ具上スルアリ右裁判ヲ得ルノ後赦典ヲ乞フ者ハ未タ決行セサル三日ノ間ニ限ル儀ト相心得可然ヤ相伺候也

(指令)

伺ノ通

第二百二條

明治九年二月二十二日
宮城縣ヨリ司法省ヘ伺

客歲十二月御省四十四號ヲ以テ地方警察官ハ直チニ檢事ノ務ヲ行フ者ト相心得事務可取扱旨御達有之候ニ付警察官檢事々務ヲ取扱ノ儀ニ付不審ノ條件左ニ
第一條
警察官ナル者ハ警部ノ職務トシ令參事ヲ長官トスル歟

第二條

該檢事職制ノ儀客歲五月十四日御定制ノ第九十一號ニ照準ス可キハ無論ナントモ檢事非違ヲ按檢シ裁判官ニ彈告スルハ司法警察犯人ヲ逮捕シ其日時地所證據情狀ヲ具狀シ檢事ニ送付スルヲ檢事之ヲ糾問シ其餘ノ罪狀發露セハ連及連累ヲ洩サス悉ク糾問按檢シ判ヲ裁判官ニ求ムル歟

第三條

縣官ノ兼行スルハ現行ノ證ヲ得ハ之ヲ裁判官ニ付シ其餘ノ罪狀判官ノ糾問情狀ヲ得ルモノトスルカ假令百圓ノ竊盜アリ現行拾圓ヲ以テ警察官捕獲シ九十圓ハ犯人口供ニ存スルノミニテ拾圓ノ證憑ヲ舉テ檢事ニ付テ檢

司法省職制及檢事職制章程

事モ亦之ヲ推糺セズ裁判官ニ送ル判官九十圓ノ連累連
及ヲ推糺シ百圓ノ證據ヲ得全贓ノ罪科ニ處スル歟

第四條

判事ノ裁判ニ服セザレハ上告スルト有之上ハ判官鞠獄
已ニ畢リテ其口書ヲ審閱スルヲ得ル歟

第五條

處刑官渡ニ連班スル歟

第六條

未決囚監倉ハ檢事ノ所管ニ屬スル歟

第七條

犯人ヲ按檢スルニハ裁判法庭ノ外糾問庭ヲ設ケ臨席ス
可キ歟

第八條

右ハ縣官檢事ノ事務ヲ悉ク履行スルトセハ縣中六課ノ
事務アリテ多端繁冗加ルニ定費限リアリ寡少ノ官吏ヲ
以テ力ノ能ク及フ所ニ無之哉ト存候間事務ノ繁閑ニ由
リ其筋ニ窺候次第モ有之候條檢事職制中了解シ難キ處
ヲ舉ケ縣官兼行ニ於テ別ニ事務權限可有之哉
(指令)

第一條

伺ノ通尤司法警察ヲ行フニ付テハ檢事ノ監督ヲ受ク
檢事章程第七條見合スヘシ

第二條

伺ノ通

第三條

可成丈ク證據ヲ得テ彈告スヘシ

第四條

口供ヲ審閱セントスルモハ裁判官ニ協議シテ審閱スヘシ

第五條

伺ノ趣檢事ハ刑事ノ原告人ナレハ固ヨリ處刑宣告ノ節ノミナラス推問及ヒ口供讀聞等ノ節ハ獄庭ニ臨シ其職務ヲ行フ儀ト心得可シ

第六條

監倉ハ檢事ノ所管ニ屬セス

第七條

按檢トハ犯人ヲ法庭ニ出シ糾問スルニ非ラス犯人ヲ探索逮捕スル儀ト心得可シ

第八條

警察官ノ兼行スルニ於テ別段事務權限之レ無キ事

第二百三條

明治九年三月七日
木縣ヨリ司法省ヘ伺

第一條

無檢事地方警察官ニ於テハ直ニ檢事ノ務ヲ行フ者ト可心得旨先般御達御座候所右其所行ハ檢事章程ニ照準シ可然哉

但施行順序ハ大凡東京裁判所檢事局ノ規則ヲ酌量シ其事柄ニ依リ橡木裁判所ト協議ノ上着手可仕見込

司法省職制及檢事職制章程

第二條

檢事章程第六條其他上告赦典等ニ係リ上申候節ハ時宜ニ寄リ警部ヨリ直ニ具狀可然哉

第三條

既ニ判事ニ求刑スレハ判事初席及ヒ罪案讀聞セ刑名宣告ノ節トモ警部隨時出席爲致可然哉相伺候也

(指令)

各條共同ノ通

第五十九章 諸會社設立規則

第二百四條

明治八年一月廿三日千葉縣ヨリ内務省ニ伺

房總漁產物取扱等ノ儀明治六年十二月中東京府下商酒井清兵衛其他ノ者共出願致シ社則之ノ通リ許可致候以來資本金充實不致荷爲換金貸付不行届手数料ノニ收入致候ヨリ漁民ノ苦情モ不甚屢督責中頭取ノモノ離社申出候ニ付仕法改正ノ積昨七年十一月九日上申ノ通此際手数料收入方ノ儀ハ同社ニ委任難致付テハ毎々租稅察ニ上申ノ通房總沿海ノ儀從前漁事專業ノ土地ニシテ一ノ定規ナキヨリ賣買上不正ノ取引有之ノミナラヌ九里海濱ノ水主共從前粗暴ノ所業不甚夫カ爲メ漁場ニ

諸會社設立規則

般衰微ヲ醸シ不漁ノ際窮民共活計難相立場所ニ付舊木更津縣以來追々惡弊ヲ洗除シ非常豫備金ノ方法等相立候儀ニテ此上漁民協和相當規律相立候場合ニ至ル迄其儘指置カタク依テ當分漁業會所ヲ設別紙規則ノ通施行候様仕度依之規則書一冊除相添此段相伺候也

再申 二月

管下漁業會所設立ノ儀ハ官民混同ノ體裁ヲ不免假令方法官誘ニ出候共其立會事務ハ斷然漁民協同施行ニ任セ候方可然實際見込今一應可申出旨御達ニ付取調候處一體漁民ノ風習他日ヲ不顧今日ヲ營兼候モノ夥多有之因テ舊習ヲ洗除シ豫備方法ヲ設クル爲メ明治六年中會所規則ヲ設ケ漁產賣買高ヨリ手數料取立右ヲ以給料仕拂

等ノ儀同年九月中租稅寮ニ相伺候處官民混同不都合ニハ候得共無餘儀情實モ有之趣去以聞届相成既ニ施行ノ際房總漁產會社設立ノ儀東京府下商酒井清兵衛其外ノ者共出願致シ官私ノ別判然相立候儀ニ付更ニ伺ノ上社則許可候儀ハ今般伺面ニ有之候通ニテ當今容易ニ民設會社起立ノ場合ニ至リカタク暫ク官誘ノ方法ヲ存在候ハテハ舊染ノ風習脱シカタク凶歉ノ救助充分不相立無餘儀舊會所規則ヲ斟酌シ更ニ伺書差出候儀ニ有之候也

(指令)

書面ノ趣ハ官民混同ノ體ヲ不免不都合ニ付管下一般施行候儀ハ難聞届候得共追々申立ノ次第無餘儀事情ニ付沿海漁業繁盛ノ場所ハ當分同ノ通施行可致尤モ

諸會社設立規則

漸次漁民ノ設置ニ委着候様精々注意可致候事

第二百五條
明治八年九月十五日
岡山縣ヨリ内務省ヘ伺

當縣士族松本重任外壹名ヨリ家祿奉還ノ者共申合積立
金ヲ主トナシ一社設立致度旨社則相添別紙ノ通願出
實取糺候處方法可然相考候間願ノ通聞届積金相預リ勤
業掛ニ於テ保護爲致不苦哉別紙相添相伺候也 (別紙除之)

(指令)

書面其縣士族松本重任外壹名ヨリ出願ノ趣ハ同志
者申合還祿賜金ヲ以貸附等相營候儀ハ聞置不苦候得
共右金額其願ニ於テ監護候儀ハ難聞届候事

正誤

- 九十三丁 第五行 (六十五條)ノ五ハ衍
- 百三十三丁 第三行 (上告上)ハ(上告中)ノ誤
- 二百三十七丁 第二行 (五十一條)ハ(百五十一條)ノ誤

遺拾ノ部

- 五十四丁 第一行 (掲載)ハ(掲載)ノ誤
- 七十二丁 第一行 (錄)ハ(祿)ノ誤

明治十三年五月廿日版權免許

定價四十五錢

編輯人

東京府士族

福鎌芳隆

牛込區水道町四
十三番地

出版人

和歌山縣平民

北畠茂兵衛

日本橋區通壹町
目十五番地

發行人

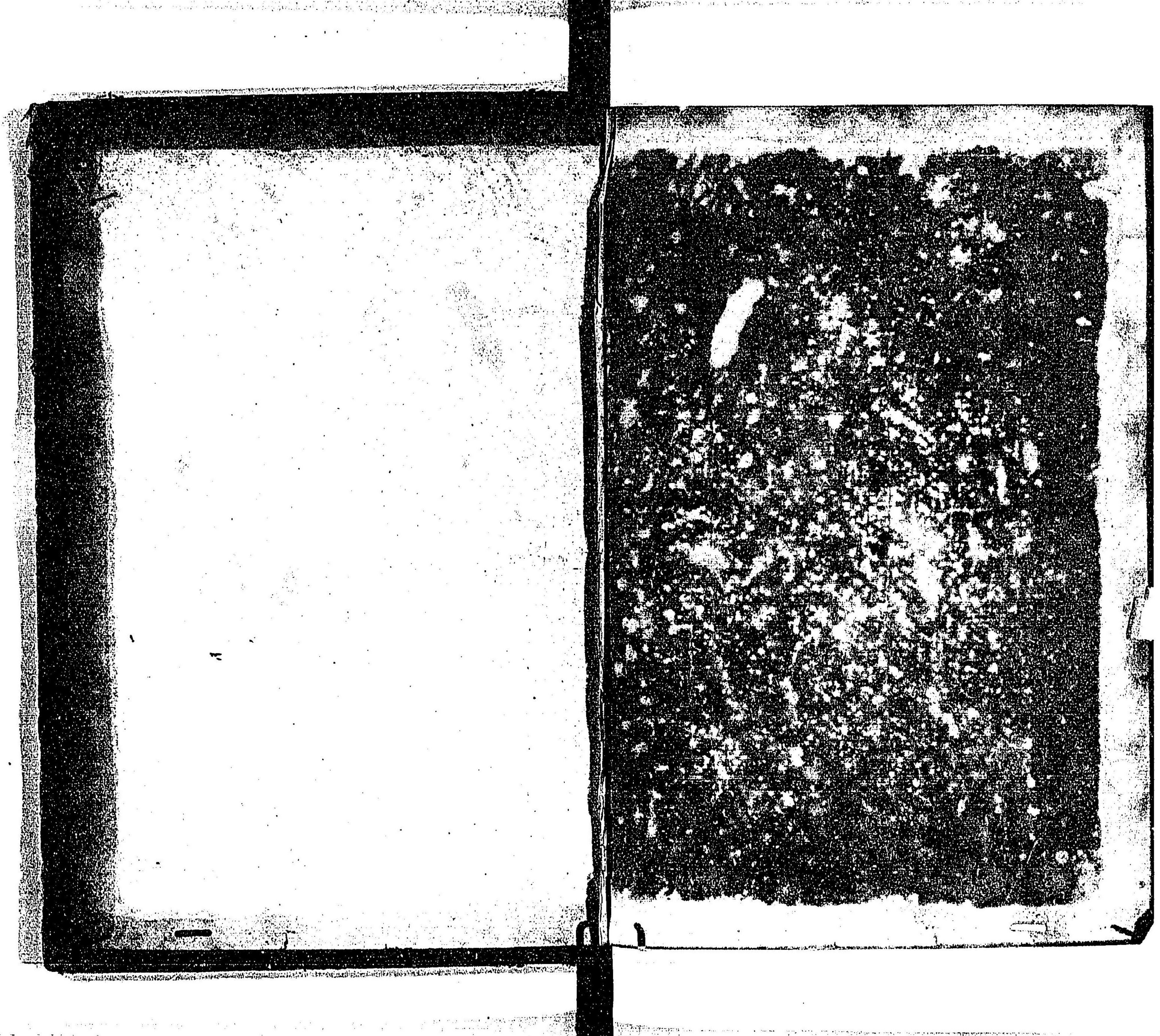
東京府平民

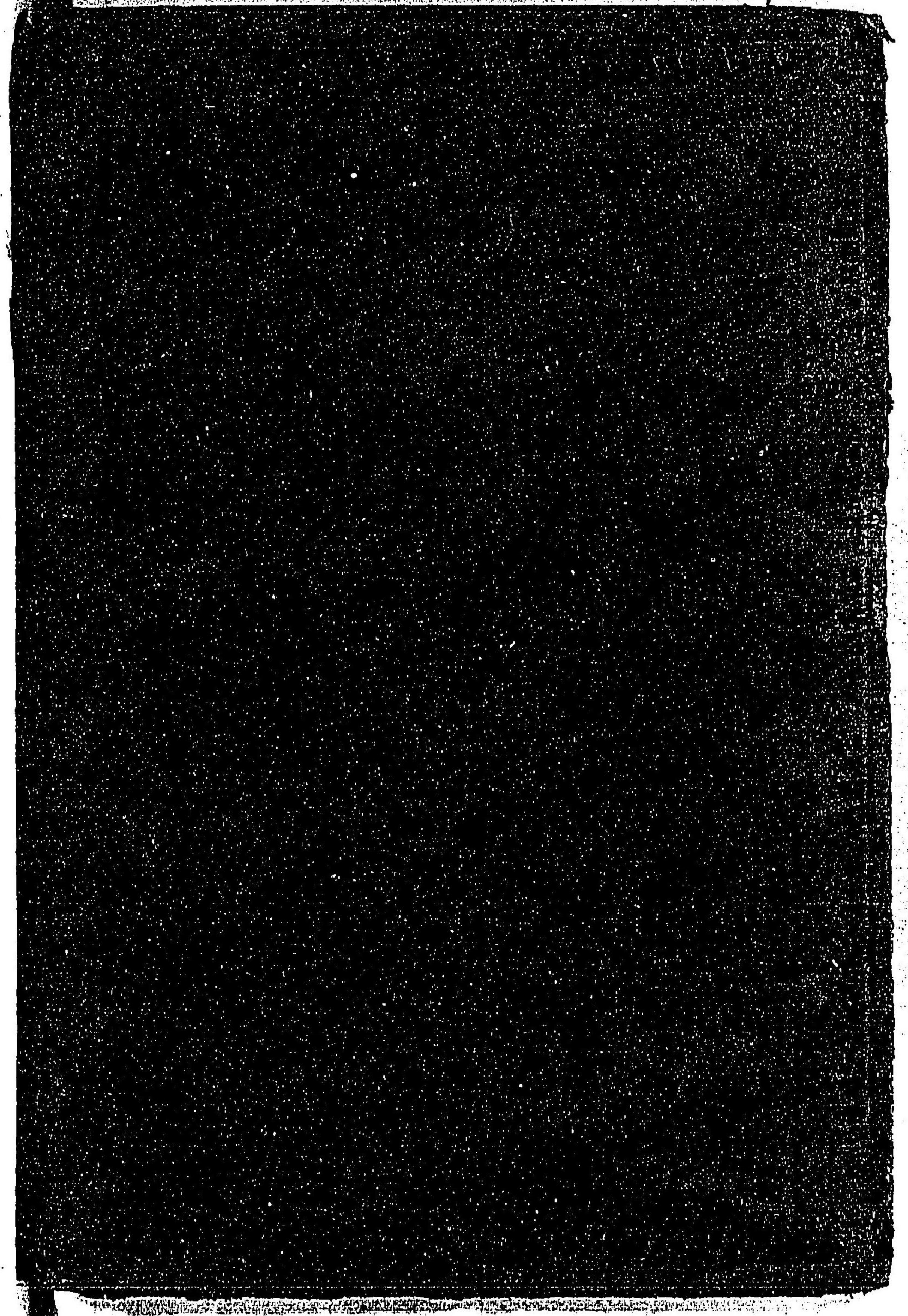
須原鐵二

日本橋區西河岸
町十二番地

賈捌所

肥後熊本	豐後府内	尾州名古屋	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大坂	西京
水島貫之	山川正三郎	片野東四郎	中川勘助	岡島真七	岡田茂兵衛	淺井吉兵衛	前川善兵衛	松村九兵衛	大野木市兵衛	田中太左衛門	柳原喜兵衛	村上勘兵衛	柳原喜兵衛	村上勘兵衛
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	東京
坂上半七	河合富吉	青山清吉	長野龜七	吉川半七	北澤伊八	太田金右衛門	出雲寺萬次郎	山中市兵衛	牧野吉兵衛	中村佐助	小林新兵衛	稻田佐兵衛	稻田佐兵衛	





東 京 圖 書 館

一 三 冊	五 號	三 架	二 九 函	屬	類
-------------	--------	--------	-------------	---	---

